

ブナハリタケ

(学名: *Mycoleptodonoides aitchisonii*)

[エゾハリタケ科 ブナハリタケ属]



▲倒木にみっしりとついたブナハリタケ



▲缶詰で保存したブナハリタケ

ブナハリタケは、日本全国の主にブナ林に分布するキノコです。9月下旬から10月にかけて、主に立ち枯れのブナの幹に、乳白色の3~10cm程度の半円形やへら型の傘が重なるように群生します。表面はなめらかですが、カサの下には名前の通りの針の様な突起が密生しています。スポンジのような肉質で、独特の香りがあります。東北地方を中心に広く食用にされており、「カヌカ」、「ブナカヌカ」などとも呼ばれます。

只見町では「カノシタ」と呼ばれ親しまれています。カノシタと言うとカノシタ科のカノシタ(学名 *Hydnum repandum*)がありますが、こちらは地上に生えるキノコで柄があり有毒です。ブナハリタケは、一度にたくさん採れるため、しばしば保存用に塩漬けされましたが、現在では水煮を缶詰で保存することも多くなりました。香りを楽しむお吸い物やカノシタ飯、塩漬けウドとの油いためなどとして食します。只見町を含む南会津地方では、ニシンと一緒に漬けこむ特徴的な食べ方があります。樽に麴(あるいは甘酒)・山椒の葉・塩を混ぜたごはん、ニシン、塩抜きしたブナハリタケを段々に重ねて行き、笹の葉で覆い、しっかりとふたをして重石を載せて漬け込み、冬の保存食としました。

※山菜やキノコ類を採取する際には入会権や類似の毒キノコとの識別に配慮・注意してください。

企画展

「只見の古民家は何の木でつくられているのか？」

—その建築様式と使用木材種—

と き:8月11日(土)~10月31日(水)

ところ:ただみ・ブナと川のミュージアム 2階ギャラリー

講演会

「只見の古民家は何の木でつくられているのか?」※会場・時間に変更有

講 師:井田秀行氏(信州大学教育学部准教授)

と き:9月24日(月・振替休日)14:00~16:00

ところ:朝日振興センター 2階ホール

詳しくは、
只見町ブナセンター
までお問い合わせ
ください

※イベントの詳細情報はブナセンターホームページかおしらせばんをご覧ください。